

**炎症性腸疾患の急性増悪時における経静脈的栄養の栄養と機能に及ぼす効果**

Effect of intravenous nutrition on nutrition and function in acute attacks of inflammatory bowel disease: *Cristie JM, Hill GL* (Gastroenterology 99: 730-736, 1990)

炎症性腸疾患 (IBD) の急性増悪時には経静脈栄養が根拠がないまま行われている。病期分類で重篤に属する潰瘍性大腸炎 4 例, Crohn 病 15 例, 計 19 例の蛋白栄養と生理機能に対する経静脈的栄養 (IVN) の効果について検討した。年齢・性・身長がマッチした健康人コントロールに比して, 体蛋白貯蔵量は最大 35% を減じ, 生理機能は 20~40% 低下していた。患者は少なくとも 3 週間のプレドニゾロン 1 日 40 mg 内服

を含む外来治療に反応しなかった者である。IVN は 14 日間行われ, 最終計測は臨床的に軽快した IVN 中止後 90~900 日, 平均 200 日後に行った。

体重・体総蛋白量・血漿トランスフェリン・プレアルブミンのほか, 呼吸筋機能として, 呼吸筋力・1 秒量・肺活量・最大呼気流量比・最大呼吸量が, 骨格筋機能として握力と, 尺骨神経刺激時の筋収縮力および刺激周波数による収縮力の変化の比を計測した。

体重と体総蛋白量には 14 日間の IVN (1 日当たり  $2,188 \pm 199$  KCal, 蛋白 N  $13.6 \pm 1.3$  g) 後, 有意な変化はなかった。しかし, 血漿トランスフェリンとプレアルブミンは 14 日後にはコントロール群と有意差を認めないまでに改善した。骨格筋機能と呼吸筋機能は IVN 4 日目をピー

クとして 7 日目までに急速に改善を示したが, その後 14 日目までには有意な改善は認めなかった。平均 200 日後の最終計測では, 体重と体総蛋白量は開始前に比して, 有意に改善し, 呼吸筋機能と骨格筋機能もそれに伴うように若干の改善を示した。これはいずれも緩徐な改善である。

IVN 開始後数日間における生理機能の急速な改善は体蛋白の増加に依存せず, エネルギーに関与するリン酸の産生増加が推定され, その後の緩徐な改善は体蛋白の増加によると考えられる。本研究は IBD 急性増悪時の栄養不良に対し IVN を行うことの有用性を支持する。

(関東通信病院消化器内科

星谷 聡 抄)